

# 東雲夢通信

東雲中学校校長室通信

文責 校長 渡邊 和彦

平成三十年五月二十三日発行第五号

## 困難に負けずやり遂げた！



があつたと思いません。よく頑張りました。二人の団長も声が、ガラガラになるまで、とことん努力してくれましたね。実行委員の皆さんも、人には言えない苦労や苛立ちがあつたことでしょう。ご苦労様でした。その他のみんなも、競技の一つ一つ全力で戦い抜きました。ありがとうございます。解団式の時小学生のリーダーが泣いていましたね。なぜだかわかるでしょう。そして、彼女や彼らの心の中に、何かが生まれ受け継がれていったこともわかつて思います。東雲

運動会が無事に終わりました。三年生を中心に本当によく頑張ってくれました。ありがとうございました。十二人の三年生にとつて、中学生のみならず、小学生も幼稚園生もまとめて、運動会を成功に導くには大変な苦労

の魂です。上浦の魂です。河野区長会長さんや、岩崎さん、大浜さん他多くの方が皆さんの安全を考え、必死にテントを支える杭を打つて下さいました。片付けでも、危険な作業を私たち教職員に代わって手伝つて下さった方がいます。グラウンドには、ゴミひとつ落ちていませんでした。ありがとうございます。河尻PTA 会長さんがおっしゃっていました。が、皆さんのために、お家の方が一生懸命作つてくださった、お弁当の事：忘れないでください。大人になつて、遠くで一人暮らしを始めたとき、どうか思い出してくださいね。あなた方が愛され、応援されて育つてきたということ！

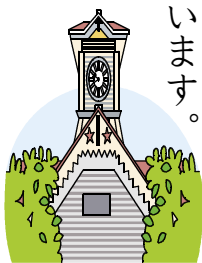
## 「子どもたちが」と言う指導者

野球が大好きで、甲子園を中心にたくさん試合を見てきました。中学校の野球部の指導を二十年させてもらいました。テレビの勝利監督インタビューで「選手達が」と言う監督より「子どもたちが」と言う監督が好きでした。見下していると思つたことはありません。「まだ子どもなんだ。守らねばき立場なんだ。間違っても失敗もして当然なんだ！」と思つている監督だな：と感じていたのです。

大学アメリカンフットボールの問題で、胸が張り裂けそうです。ものすごい怒りを感じます。何のために勝利や頂点をめざすのだろうと疑問に感じます。「勝つ」事は誰のため、何のためなの

でしょうか？

野球の指導を終えて、教え子は軽く三百人を越えると思います、思い込みかもしれませんが、一時、トップや栄光を極めたかのように見える選手達よりも、どちらかという、選ばれず、故障したり、挫折した子どもたちの方が、その後、優しく強く、しなやかにたくましく育ち、人に感謝を忘れない大人になつていくように感じるので、どうしてかな：と思つています。



## 再び時を刻み始めた時計

校舎、三階の上にある大時計が、五年間以上、止まっていました。修理の見積もりをしたら二十万円以上かかると言われたそうで、その後二万円程度で、はるかに小さな時計を外に設置した経緯があるそうです。「校長先生、あの時計どうにかならないでしょうか？」とご相談も頂きました。私自身、すごく気になつていたので、過去の経緯を知つたので、無理だと諦めていました。だけど、「困難に負けない」と一念発起し、電源を落としたりヒューズを外したり、一時間以上調整ボルトを起動させ、標準時に合わせるところで自動運転に切り替えるという奇想天外（本人が思うだけ）な策に出してみました。見事、正確に時を刻み始めたのです。（親時計はずれたまま（笑））私が東雲の校長になつて行った最も価値のある仕事：と思つて良いですか？ありがとうございます！